



人間が着る服。

ITSUKO UEDA



ファッションデザイナー
植田いつ子さん

プロフィール
玉名市出身。
日本ファッションエディターズクラブ賞受賞。
美智子妃殿下の
専属デザイナーとしても知られる。
今回の帰郷は、20年振り。

ファッションというワード、
目まぐるしく変わる流行の
代名詞のように言われていますが、
私はそうは思いません。
服とは、人間が着るものだから、
フォルムや装飾は時代の要求に応えながらも、
本質は変わらないと思います。
服は服だけでは存在しません。
着る人の体温、香り、
初めて生きるものなのだと思います。
初めて生きたと言われたら、
だから、いくら流行たと言われても、
自分に合わないと思ったり、
断固拒否すればいい。
断固拒否すればいいのはおかしいでしょう。
断固拒否するのにはおかしな仕事って、
服だけが一人歩きするのはおかしいから、
服だけのところ、デザイナーの仕事って、
本質を実際に着る人との
交流がなかったら、とても空疎なもの。
交流がなかったら、とても空疎なもの。
人間が着るのてなかつたら、
とっくにやめていたんじゃないかしら。
同じ服を着る人によって、
見事に変わってしまふ。
その面白さと怖さ、そして広がり魅力ですね。



もちろん、西欧の文化である洋服を、
そのまま日本人が着ても、
外国の方にはないところないんです。
昭和三十八年頃、初めてヨーロッパを訪れて、
それを思い知らされました。
そして行きついたら、日本人のための服を作ること、
日本人には日本人の美しさがあり、
それを最大限に表現することが、
私の仕事...そう思って、
今日までやってきました。
服の骨格は西欧のものですが、
その中に盛った文化は日本の。
日本の伝統である文化は日本の。
熊本は街行く人の
ファッションにしても、
街並みにしても、
とてもバランス感覚に優れたところがある。
二の丸の美術館や県立劇場も行きましたが、
街並みにしつくり溶け込んで
素晴らしいと思います。出して...
素晴らしい個性と美しさがあることを
熊本らしい個性と美しさがあることを
熊本らしい個性と美しさがあることを
私はこれまで、熊本人であること
誇りに思っています。
久しぶりに帰って、
また、その思いが強くなりました。
これからも熊本は熊本らしく
あって欲しいですね。